

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ ジョイコン NEWS ♪

第 16 号 2016 年 2 月 17 日

前回の「3周年記念特別演奏会」は、ジョイコン初の2部制公演でしたが、
いずれも満席で成功裏に終了することができました。
これからも引き続き「ジョイコン」を宜しくお願い申し上げます。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」(第16号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆ 第20回コンサート
- 【2】 今後の予定(先取り情報)
 - ◆ 第21回コンサート
 - ◆ 第22回コンサート
- 【3】 ギターは完全楽器!
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内

■ ■ 第20回コンサート ■ ■

- ◇ 2016年3月20日(日曜日) 14:00 開演 (13:30 受付開始)
- ◇ 出演: 鈴木大介(ギター)
- ◇ プログラム(予定)
 - ◆ J. S. バッハ: パルティータ 短調 BWV1002
(原曲: 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第1番)
 - ◆ J. S. バッハ: パルティータ 二短調 BWV1004
(原曲: 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番)
 - ◆ J. S. バッハ: パルティータ ホ長調 BWV1006a
(原曲: 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番、及びリュート組曲第4番)
- ◇ 料金: 大人・高校生 2,000 円、中学生以下 1,000 円
- ◇ 会場: 大倉山記念館ホール

第20回ジョイフルコンサートは
『鈴木大介 バッハを奏でる～ギターの名器によって優雅に奏でられる舞曲たち』
と題して、お届けします。

演奏者の鈴木大介さんからメッセージが届いています。

演奏者からのメッセージ

以前、大倉山記念館で、無伴奏ヴァイオリン・ソナタを3曲演奏させていただいた
のですが、以来、個人的に思うこともあり、バッハの無伴奏ヴァイオリンのための
作品をまとめて弾く機会がなかなかありませんでした。

ただし、一昨年くらいから、自分でも編曲にある程度の統一感や納得が得られる
ようになってきており、今年は年始より頻繁にプログラムに加えています。
是非、思い出の大倉山記念館で、久しぶりのオール・バッハプログラムを聴いて
いただけたらとても嬉しいです。

ご自分でギター曲に編曲されたバッハの無伴奏ヴァイオリン・パルティータ
3曲を演奏していただきます。

これからバッハもいろいろ演奏なさっていきたいそうです。

そのため今回のジョイコンの演奏をととても楽しみにして下さっています。

☆ J. S. バッハ/無伴奏パルティータ

◇J. S. バッハ

バッハは「音楽の父」と称され誰もが知っている作曲家です。幅広いジャンルのクラシック音楽の作曲を行いました。対位法的音楽を主に作り、バロック音楽から古典派への橋渡しの存在と言われています。

ピアノでバッハの曲を弾くと、特に中声部にメロディーが出てくると左手と右手でぶつぶつ切れて変だと言われたり、音が変わって変だと言われたり、難しいし、弾きにくいです。ただ左右対称のようで幾何学模様の様だと思った事もあります。

今回調べてみるとバッハは10歳で両親を亡くしていました。その後長兄に引き取られ兄から音楽的な教養を得ます。しかし、10代半ばで自活しなければならず、非常に過酷な運命だったと知りました。それでもやはり才能に恵まれていたのだと思いますが、最初は教会の合唱団のソプラノ歌手として月給をもらって学業を続け、その後ヴィオラ、ヴァイオリン奏者として教会で働きます。更にバッハは優れたオルガン奏者でした。

ワイマールの宮廷楽団の楽師、宮廷礼拝堂のオルガニストになりそこでたくさんのオルガン曲を作曲し、次のケーテンでの宮廷楽長として働く間に、今回演奏していただく無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータを作曲しました。

ケーテンでの生活をバッハは「わが生涯最良の時代」と呼んだそうで、とても充実した生活でした。宮廷楽団には一流の演奏者がそろい、この楽団や楽員のために管弦楽、室内楽を作曲しました。バッハ自身が設計したチェンバロを宮廷が購入したため、「平均律、フランス組曲、イギリス組曲」等クラヴィアのための曲も非常に多く作曲しました。

しかし、ケーテンでの生活にも何かあったのか、その後ライプツィヒに移り、聖トーマス教会付属学校合唱長として65歳で死ぬまで勤めます。ここでは教会音楽の仕事に従事し、多数の教会音楽を作曲します。しかしあまり教会関係者には評価されず、脳卒中の後遺症で失明してしまい失意の内に65歳で亡くなりました。

バッハの音楽は生前より死後、モーツァルト、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、ショパンなどの音楽家達に引き継がれそうして段々と社会に評価されていきました。

◇無伴奏パルティータ2番

パルティータは18世紀のドイツにおいて共通の主題やモチーフを使って、統一性をもたせ構成された組曲です。作品の展開に様々な舞曲の特徴を盛り込んだ変奏曲と言えます。

バッハの無伴奏パルティータ2番は「シャコンヌ」を終曲に持ち、この曲集の頂点と言われています。ブームスが左手のためのピアノ曲に編曲しています。コマーシャルや映画音楽で使われることも多いです。荘厳な雰囲気曲だと思います。

演奏者の方の意気込みを強く感じられると思います。どうぞお楽しみに。(A.N)

★★★満席となりました★★★

大変申し訳ありません。今回は早々と満席になってしまいました。

(「キャンセル待ち」は受け付けております)

【2】今後の予定(先取り情報)～「予約申し込み」はまだ受け付けておりません

■■第21回コンサート■■

◇2016年5月15日(日曜日)

◇出演:黒田聡(フルート)、中山正瑠(オーボエ)、安田健太(ホルン)、

早川邦宏（ファゴット）、中里真也（クラリネット）

ジョイコン初の木管五重奏コンサートです。

◆予約受付開始日：2016年3月21日（月曜日）

■■第22回コンサート■■

◇2016年7月17日（日曜日）

◇出演：塚越慎子（マリンバ）、石黒唯久（ピアノ）

【3】ギターは完全楽器！

ギターはピアノとならんで「完全楽器」と呼ばれ、音楽の三要素である「リズム」「メロディー」「ハーモニー」が一台の楽器で完全に表現することができます。だから伴奏付きギター曲はありません。

ギターは弦をはじいて音を出す「撥弦（はつげん）楽器」です。

「ギター」という名前は紀元前の古代ギリシャの撥弦楽器「キタラ」からきていると言われています。楽器自体は古代オリエントに生まれたものでそれがペルシャの民族楽器リュートとなり中世ヨーロッパに伝えられたというのが有力な説です。

ほぼ現在と同じ大きさ・形のギターが完成したのは19世紀のことでスペインのギター製作家アントニオ・デ・トーレスによるものです。

現在に至るまでスペインはギター音楽の中心地です。

生の音を出すアコースティックギターは昔ながらの「クラシックギター」と20世紀になって開発された「フォークギター」に分けられます。

（注：「フォークギター」は和製英語）

この二つのギターの一番の違いは弦です。クラシックギターの弦はナイロン製ですがフォークギターは大きな音量が出るようにスチール製です。クラシックギターのネック（ヘッドと胴をつなぐ板）はフォークギターより幅が広く厚みがあるので左手でネックを持って親指で弦を押さえることはしません。

演奏の仕方も違います。

クラシックギターはフォークギターのようなピックは使わず、右手の指先と爪で弦をはじいて音を出します。だから音はやわらかく少し小さいです。

そして、弾く時は椅子に座って足台を使い、ギターのくぼみを左太ももの上に乗せて演奏します。

クラシックギターの歴史は長いですが、衰退していた時期もあって、再び脚光を浴びるきっかけを作ったのは近代ギター音楽の父といわれる

フランシスコ・タレガ（ギタリスト・作曲家）です。

20世紀クラシックギターの基礎を築き、クラシックギターを表舞台に押し上げたと言われています。タレガの代表曲が『アルハンブラの思い出』です。

20世紀に入り、現代クラシックギター奏法の父といわれるアンドレス・セゴビアが登場します。セゴビアはバッハの曲をギター用に編曲したり、ロドリーゴやヴィラ＝ロボス等の作曲家達に作曲を依頼し、独奏曲から協奏曲までギターのレパートリーを広げました。

ロドリーゴは『アランフェス協奏曲』の作曲者です。

パラグアイのギタリストで作曲家のアグスティン・バリオスはバッハの「リュート組曲」を初めてギターで弾いた人で、「ギターのショパン」といわれるほどロマンチックな曲を作ります。

『大聖堂』はバリオスの代表作とされる名曲です。

クラシックギターの曲は他の楽器のための曲を編曲したものが多いです。
例えば原曲がビゼーの『ギターのためのカルメン組曲』は素敵です。
アルベニスの『アストゥリアス』もギター演奏で有名なのでギター曲と勘違い
されますがオリジナルはピアノ曲です。どの曲を聴いても、ギターで弾くと
オリジナルの楽器とはまた違ったやさしく癒される音色になっているような
気がします。(のん)

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（1月17日公演）、
『生粋の浜っ子・横山姉妹によるヴァイオリン Duo リサイタル』
は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「良かった」「大変良かった」の合計が84%
（残りは無回答16%）で、今回も高い評価でした。
また、比較的若い年代の方もご来場されたようです。（30～50代で30%）

自由記入欄（ご感想など）には、大変好意的なコメントを多く頂きました。
『大倉山駅も本コンサートも初めて来ました。ヴァイオリンの音を今までで最も
近く、原音を聴く機会となりました』『いつも素晴らしい演奏者を呼んで下さり、
身近に（距離も費用も）格式高い記念館でのコンサートで本当に嬉しい限りです』
『ピアノとの協奏曲、すばらしかった！ 後半2曲とも感激しました。曲目初めて
ですが心沸き立つ思い。姉妹だけあって絶妙のコンビ。アンコール曲、バッハは
最高でした。とても良いコンサートでした』『素晴らしい会場と素晴らしい演奏に
感動しました。ボランティアで運営している日本でも珍しいコンサートとおきき
して感銘を受けました。3年も続いていることに感動いたしました』等々。

演奏者から実行委宛に感謝のメールが届いていますので、その一部を紹介します。
横山奈加子さん：“ちゃんとしたリサイタルプログラムでの2回公演は生まれて
初めてでしたが、数日前に会場リハーサルが出来たこともあって、無事に乗り
切る事が出来、ほっとしています！”
佐々木京子さん：“素晴らしい会ですね。大倉山記念館も素敵です。地元で愛され
て、身近なコンサートになっていますね。それも、会を支えていらっしゃる皆様
の大きなサポートあってのことだと思っております”

「ジョイコン」は、今後も演奏者とお客様を繋ぐ“架け橋”になれるよう努めて
まいります。

【編集後記】

前回のコンサート（1月17日）は、公演終了後の夜半過ぎから雪になりました。
実は、ジョイコンの公演は、これまで雨や雪と重なったことはありません。
願わくは、この記録はもっともっと伸びてほしいものです。(お)

■演奏会予約申し込み

次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら

ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら

info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <http://www.ohkurayama-joycon.com/>
